

針広混交林化について

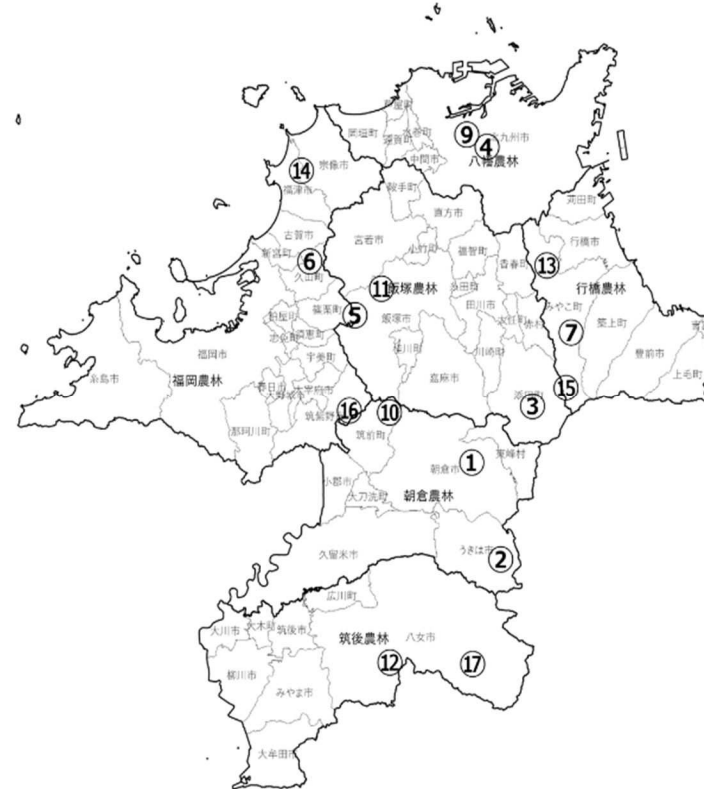
令和7年6月2日

針広混交林化について

○ モニタリングプロットの設定

- 令和5年度末までに、13市町において、20プロットを設定

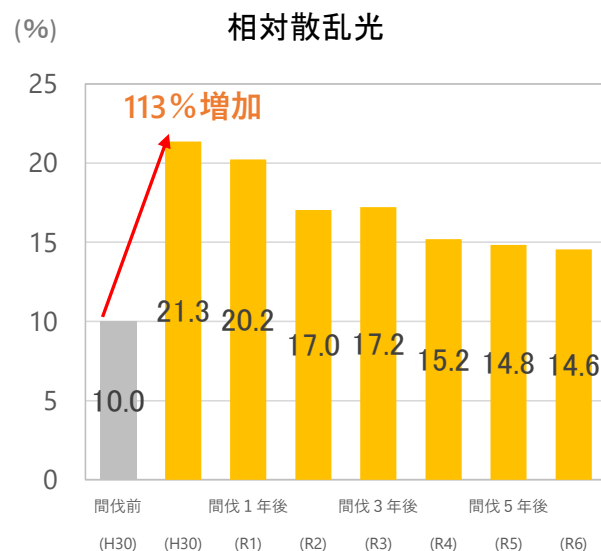
番号	市町村名	樹種	林齢	設置年度
①	朝倉市	ヒノキ	31	H30
	朝倉市	ヒノキ	31	H30
②	うきは市	ヒノキ	40	H30
	うきは市	ヒノキ	40	H30
③	添田町	ヒノキ	50	H30
	添田町	ヒノキ	50	H30
④	北九州市	スギ	60	H30
⑤	篠栗町	スギ	59	R1
⑥	新宮町	ヒノキ	53	R1
⑦	みやこ町	ヒノキ	57	R1
⑨	筑前町	ヒノキ	41	R2
⑩	飯塚市	ヒノキ	47	R2
	飯塚市	スギ	56	R2
⑪	八女市	スギ	26	R3
⑫	みやこ町	ヒノキ	61	R3
⑬	福津市	スギ	74	R3
⑭	みやこ町	ヒノキ	37	R5
⑮	筑紫野市	ヒノキ	63	R5
⑯	八女市	スギ	26	R5



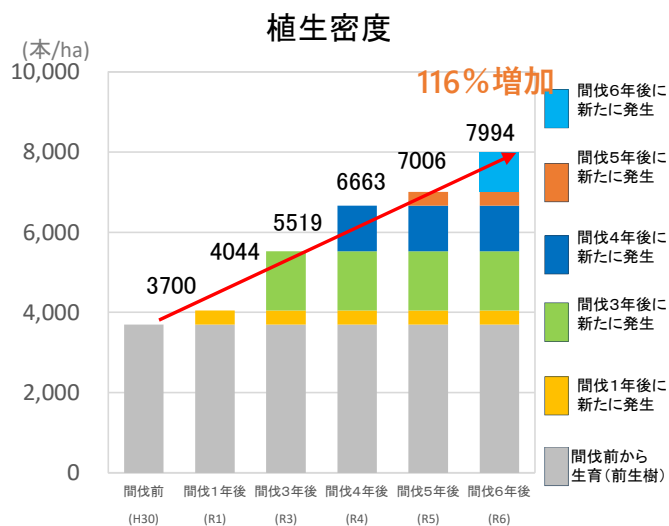
針広混交林化について

○ 強度間伐の効果検証(光環境・下層植生)

- 強度間伐実施箇所では、林内に差し込む光量が間伐後、約2倍に増加。
これにより、下層植生の生育が促され、植生密度は間伐6年後で約2倍増加。

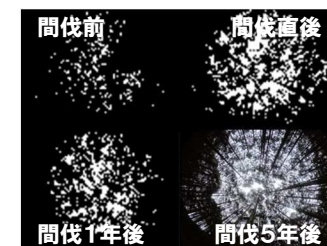


(間伐前後の光量の変化)

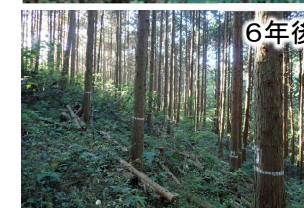


(間伐前後の植生密度の変化)

※H30年度に設置した朝倉市、うきは市の4プロットにおける調査結果の平均値



(間伐前後の全天空写真)



(強度間伐後の下層植生の経年変化(うきは市)) 3

針広混交林化について

○広葉樹の侵入状況

- 高木性樹種であるシイ、カシ類、タブノキ等を確認
→将来スギと一緒に林冠層を形成する後継樹の候補
- カラスザンショウ等明るい環境で発生する先駆性樹種を確認
→強度間伐により林内の光環境が良好な状態
- ヒサカキ、ネズミモチ等鳥散布型の樹種を多数確認
→針広混交林化を加速化させる鳥散布型の樹種を誘引



亜高木層を形成するタブノキ



強度間伐後に発生したカラスザンショウ

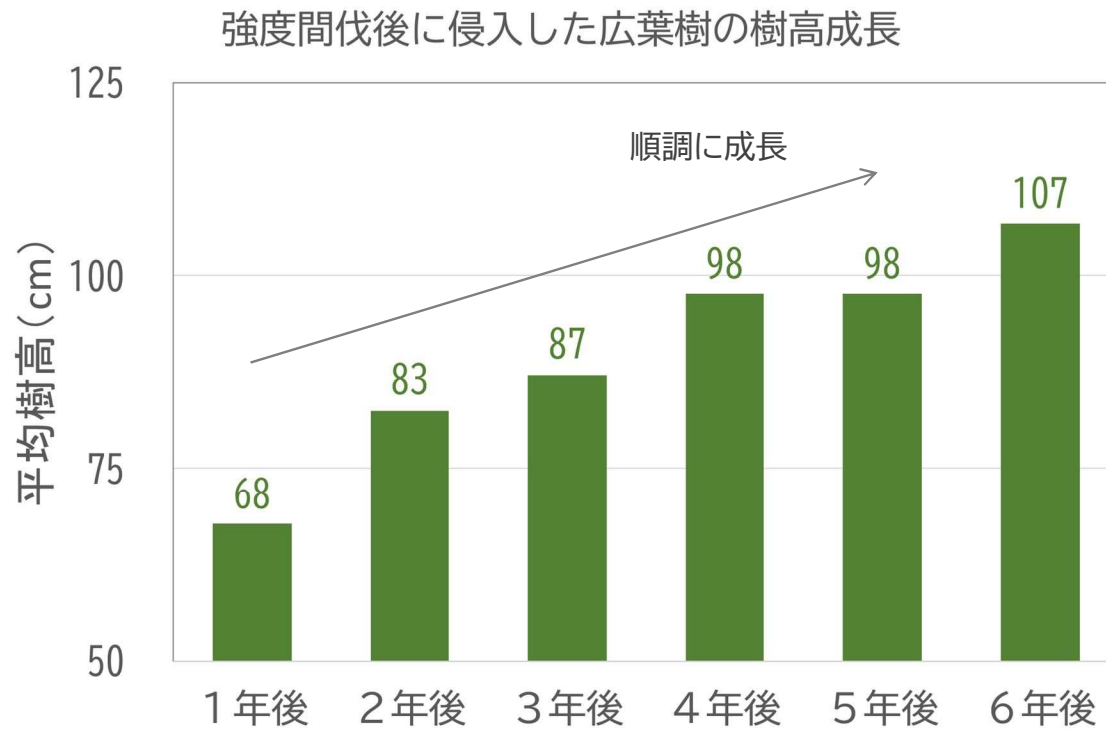


低木層に優占するヒサカキ

針広混交林化について

○広葉樹の変化・生育状況

- 強度間伐後に侵入した広葉樹は順調に成長



※H30年度に設置した朝倉市、うきは市の4プロットにおける調査結果の平均値



針広混交林化について

○ 事業実施箇所の現況

- 実施箇所:うきは市新川
- 実施年度:平成30年度



針広混交林化について

- 高木性広葉樹が侵入。
- 針広混交林化に向け、概ね順調に推移している。
- 今後もモニタリング調査を継続し、新たにプロット外での調査も実施予定。